

## 広島県深安郡一帯のオニバス自生地

橋本卓三

福山の北8 km付近の<sup>かなべ</sup>神辺平野(福山市、深安郡神辺町)では過去いくつかの溜池でオニバスの自生が知られていたが、1960年代以降多くの池が養魚に使われる過程で人為的に水草が根絶されたり新興住宅地からの下水が流入したりした結果、現在ではほとんどの自生地が消滅している。この中で、昨年と今年の調査により3ヶ所の池でオニバスの生育を見たので報告する。

1987年10月13日の調査でオニバスを確認したのは福山市加茂町上加茂の菱原池、深安郡神辺町徳田の砂原池、<sup>なつのえ</sup>神辺町道上の三ツ池(南池)であり、いずれも面積1～2 haの溜池である。

菱原池では池の流入部近くの岸に沿って数十株以上のオニバスが密生しており、葉径は0.5～1 m位と思われたが、20個以上の果実が輪状に水面にのぞいている株がかなりあった。この池では地元の人によってコイが飼われているが特に肥育はなされていない様で、ヒシ群落の発達する池水は褐色であるが汚れはほとんど無い様に見受けられた。他の二つの池と異なって山麓の谷すじにあるためか、カモヤカイツブリ等が多数目撃された。

砂原池では二十数株が確認でき、いずれも一株当りの葉数は10枚前後で葉径は最外部で1 m以上あったが、中には15枚位の葉と30個近い果実を付けている株も認められた。これらのオニバスは池のあちこちに分布するハス群落の周辺に見られた。池にはほぼ全面に渡ってヒシ群落が発達しており、沈水植物としてはクロモとマツモを見ている。砂原池のハス群落は今年になって再び発達したものであり、昨年はヒシ群落中に所々ハスが散在するのみであった。これは5年程前に或る業者が釣りえさとしてエビ、モロコ(共に当地の自生種)を養殖する目的でソウギョを入れて池を「耕やした」結果、数年間ハスを始めとする水草類の生育を見なくなったためである。

池近くに住む人の話では、この池でハスが増えたのはここ7、8年来の事であり以前はヒシとオニバスのみが見られたとの事であった。現在、砂原池では養魚は中止されている様なので今後ともこの状態が続けばオニバス群落は回復し得るものと思われる。

三ツ池(南池)では一面に密生するヒシ群落の岸近くに余り生育の良くない3個体を認めたのみであった。この池では現在地元の人が養魚を行っており、観察した所では砂原池に較べて少し汚れている様に思われたが、ソウギョの導入はやっていない様であった。なお、道路を隔ててこれに隣接する北池では以前には南池同様に多くのオニバスが見られたそうであるが、現在は養魚会社がコイを飼育しており、いつ見ても濁った緑色ないしは褐色でアオコも目撃され、水草の生育は皆無である。

なお、1986年11月の調査では砂原池で3株のオニバスを見ただけであり、菱原池と三ツ池では確認できなかった。

今年は夏と秋に比較的雨が多く、溜池の水質もかなり良好だったのではなからうかと思われる。又、菱原池と砂原池では今年はヒシの生育密度が昨年よりも低い様であった。砂原池では調査時、ヒシハムシによる食害がかなり目立ち、ヒシの密度低下はこの事と関係があるのではないかと想像された。全く別の小さな池ではあるが、昨年抽水状の葉を出す程に密生したヒシ群落が8月中頃にヒシハムシの食害でまたたく間に枯死し、今年はヒシの発生を全く見ない所がある。そして、これに近いもう一つの池では昨年被害の無かったヒシ群落が今年は6月下旬から早々と食害されて一時はかなり赤変したのであるが、その後持ち直して生育を完了した。しかし、群落の密度は明らかに低下してしまい個体の大きさもやや小さくなった。